

家庭でできる 目のチェック

お子さんの
目は大丈夫？

視力や見る機能は、生まれてから6歳くらいまでに大きく発達します。

その間、何らかの原因でお子さんが見えにくい状態が続くと、物を正常に見る力が育ちません。そしてその結果、よく見ることが苦手になり、小学校からの学習で苦手なことが増えるお子さんがいます。

お子さんの目に何らかの課題がある場合、できるだけ早く気づき、診療や治療、トレーニングを始めることが大切です。目で見える力には、視力だけでは測れないものがあるのです。

一緒に生活していても、お子さんの視力の低さにはなかなか気づきにくいものです。目の病気のサインがお子さんの様子に現れていないか、チェックしてみましょう。少しでも不安なことがあれば、早めに小児科や眼科を受診しましょう。

こんな見方していませんか？

顔を傾けて見る

片目をつぶって見る

テレビや本に
極端に近づいて見る

目の位置がずれている
正面の物を横目で見る

目が揺れる

こんな苦手ありませんか？

- ☐ よくつまずく、転ぶ。
- ☐ とてもまぶしがって目を細める。
- ☐ 階段や坂を歩くときに怖がって、一段ずつ降りたり、柱や手すりをたよりにしたりする。
- ☐ 見た物や人物、ものの形をまねして描くことが苦手である。
- ☐ ボール遊びやお遊戯、それに似た体育が苦手である。
- ☐ 手先を使う作業が苦手である。(はさみ お絵かき等)
- ☐ 文字を読むのに非常に時間がかかる。行を飛ばしたり、同じ所を何度も読んでしまったりすることがある。
- ☐ 教科書は読めるのに、黒板の文字が読めていないようだ。
- ☐ 漢字がなかなか覚えられない。書き間違いが多い。
- ☐ 文字を書くときにマスからはみ出す。

ご 相 談
お問い合わせ

視覚支援センター（山形盲学校内）
TEL 023-672-4116

山形盲学校は、見えにくい方や見ええない方の支援を行う学校です。
視覚支援センターは、乳幼児から成人の方の相談支援を行っています。



生活に必要な視力と 学習に必要な視力とは？

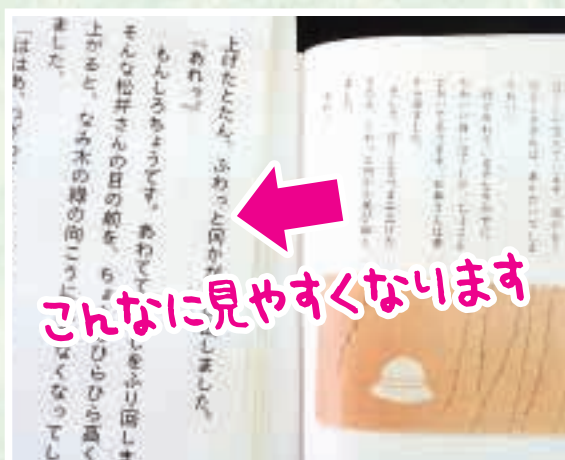
視力が低くても、家の中や慣れた場所での生活にはほとんど支障がありませんが、学習の成果が十分に上がらないことがあります。就学時健診や学校の視力検査が **C判定 (0.3～0.6) D判定 (0.3未満)** のときは、眼科を受診し、目にあった眼鏡をかけましょう。

見やすい学習環境を整えよう！

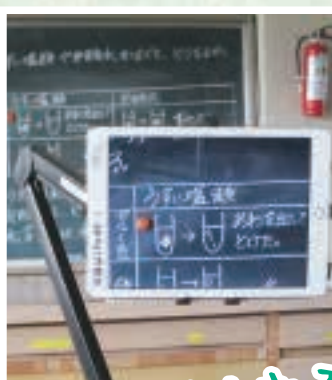


見えづらさを我慢して学習をしても、集中力は続きません。見えづらさは目の疲れ、身体の不調につながることもあります。お子さんの見やすい学習環境を整え、お子さんが学びやすくすることが必要です。お子さんが学習したい気持ちをサポートしましょう。

拡大教科書



タブレット



どのアイテムもお子さんの学習上の負担を軽減するために効果的です！

傾斜机・書見台



表示の大きい黒い定規



遠くを見る拡大レンズ



近くを見る拡大レンズ



ご 相 談
お問い合わせ

視覚支援センター（山形盲学校内）
TEL 023-672-4116

視覚支援センターでは、お子さん一人一人の見え方に合わせ、お子さんが一番学びやすい文字の大きさを調べたり、使いやすい道具を紹介し、試してもらったりすることができます。また、見えにくさを補って効率的に学習するための専門的なサポートも行っています。どうぞお気軽にご相談ください。